

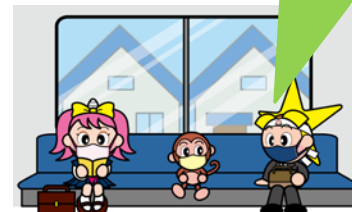
# 岡山県感染症週報 2024年第19週 (5月6日～5月12日)

## ◆2024年 第19週 (5/6～5/12) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第17週	4類感染症	レジオネラ症	1名 (60代 男)
	5類感染症	梅毒	2名 (20代 男 1名、30代 男 1名)
第18週	2類感染症	結核	1名 (80代 女)
	4類感染症	日本紅斑熱	1名 (70代 男)
	5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1名 (70代 男)
		梅毒	1名 (20代 男)
第19週	2類感染症	結核	2名 (80代 男 1名、90代 男 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名 (O103:小学生 男)
	4類感染症	A型肝炎	2名 (小学生 女 1名、20代 男 1名)
	5類感染症	急性脳炎	1名 (60代 女)

効果的な場面でのマスク着用！



© 岡山県「ももっち・さるっち・うらっち」

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ/COVID-19 定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で 193 名 (定点あたり 2.30 人) の報告がありました。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が、過去 10 年間の同時期と比較して多くなっています (定点あたり 2.37 人)。

- [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で 193 名の報告があり、前週とほぼ同数でした (定点あたり 2.43 → 2.30 人)。詳しくは、「[★新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報](#)』をご覧ください。
- [A群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#) は、県全体で 128 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 1.96 → 2.37 人)。地域別では、真庭地域 (5.00 人)、岡山市 (3.21 人)、備北地域 (3.00 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多く、保育園や幼稚園、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど感染予防に努めましょう。
- [日本紅斑熱](#) は、2024 年第 18 週に 1 名の報告があり、2024 年の累計報告数は 2 名となりました (2023 年の同時期: 1 名)。ダニが媒介する感染症として、他に[重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) や[つつが虫病](#) などがあります。これらは、病原体を保有するマダニまたはつつがムシに刺咬されることで感染します。また、SFTS に関してはイヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等については[コラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう！」](#)をご覧ください。

### 流行の推移と発生状況 (新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は別掲載)

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	➡	★
咽頭結膜熱	➡	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	★
突発性発疹	➡	★	ヘルパンギーナ	➡	★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡	★	細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移： ⬆：大幅な増加 ➡：増加 ➡：ほぼ増減なし ⬆：減少 ⬇：大幅な減少  
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)

空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

## ～ ダニの活動が活発になる時期です ～

# ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)\*、つつか虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。

体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [日本紅斑熱とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [ツツガムシ病とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)



吸血後の  
フタゲチマダニ♀



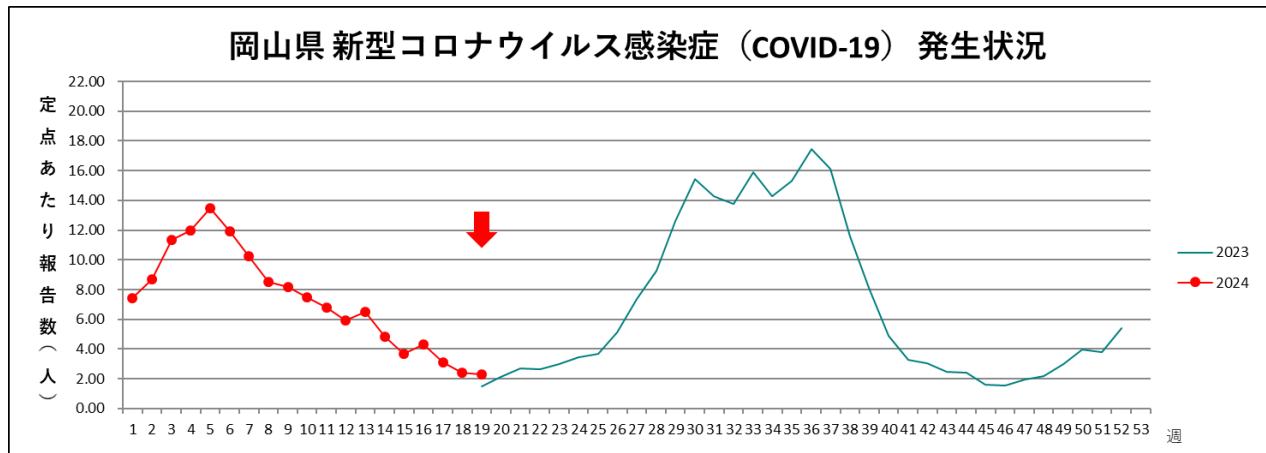
ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター  
ウイルス科 撮影画像

# ☆新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報

岡山県の流行状況（第19週（5/6～5/12））

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で193名（定点あたり2.30人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。



※ 2023年は定点把握対象へ移行した第19週から表示しています。

※ 全数把握時のデータは[こちら](#)

※ 2023年5月7日（2023年第18週）までの全数把握の患者数をもとに、2023年5月8日以降の定点医療機関からの報告患者数を抽出して集計した患者数の推移（参考値）はこちらをご覧ください。→ [厚生労働省 HP](#)

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で193名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり2.43 → 2.30人）。地域別では、備北地域（5.83人）、真庭地域（4.00人）、備中地域（3.08人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年代別では、20代および80代以上の年代で前週から増加しました。

基本的な感染防止策（効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3密（密閉・密集・密接）の回避、健康的な日常生活、ワクチン接種、体調不良時の備え）に留意し、自主的な判断により実施しましょう。

## ●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で流行が継続している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中に留まりうることから、換気が不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。

## ●症状

日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と短く、また、発症前からウイルスを排出し、感染源となることが分かっています。上気道で増殖しやすい特性から、従来株（デルタ株等）に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があると考えられています（[日本におけるCOVID-19妊婦の現状（日本産科婦人科学会、2022年6月7日付報告）](#)）。

なお、罹患後症状（いわゆる後遺症）については、以下をご覧ください。

- ・ [罹患後症状のマネジメント・第3.0版（2023年10月20日発行）](#)
- ・ [『新型コロナウイルス感染症罹患後も続く症状（後遺症）にお悩みの方へ』（岡山県ホームページ）](#)

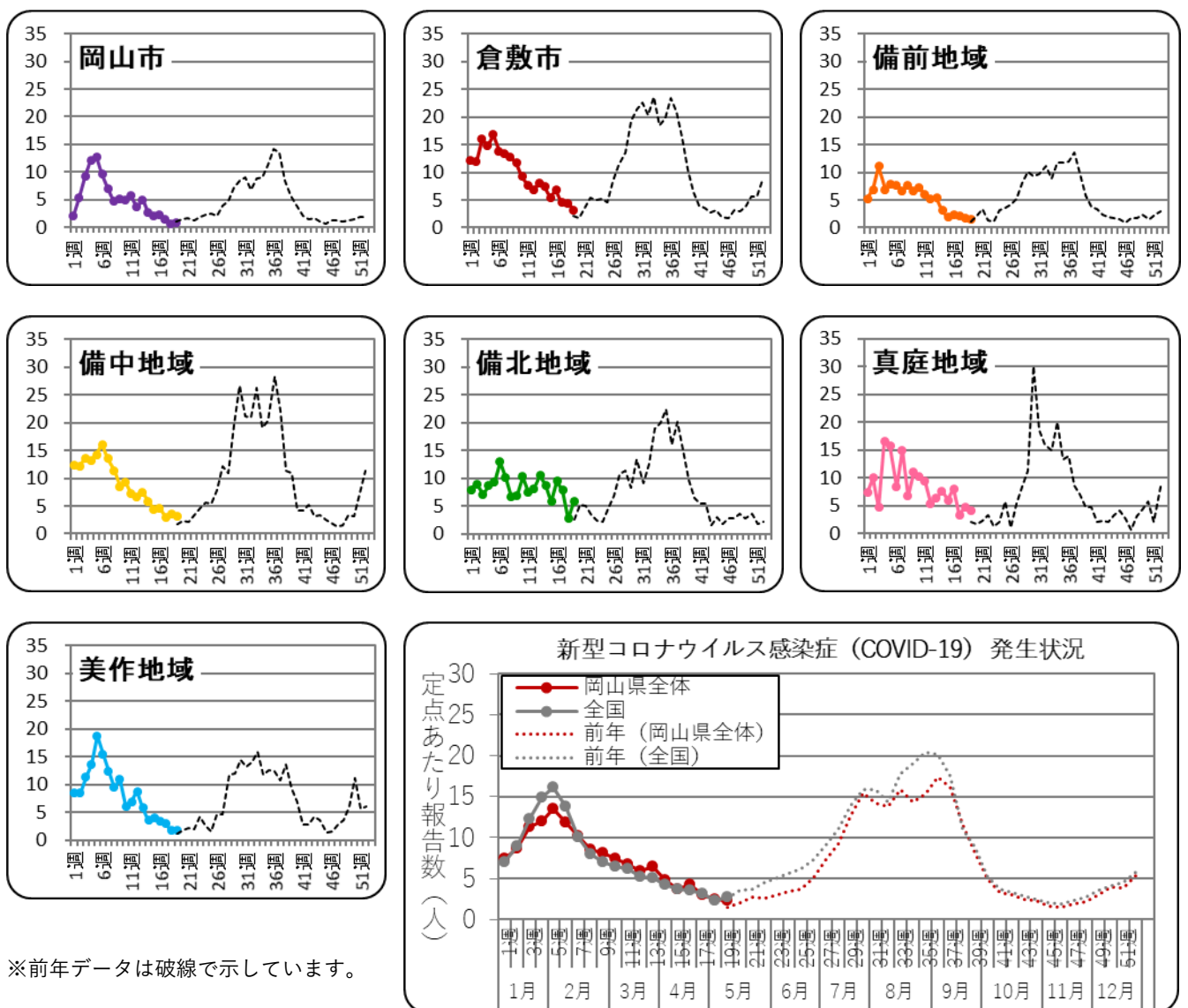


基本的な感染症対策！  
ワクチン接種も大切！

1. 地域別発生状況

地域名	発生状況 (人)		推移	地域名	発生状況 (人)		推移
岡山県全体	患者数	193	➡	備 中	患者数	37	➡
	定点あたり	2.30			定点あたり	3.08	
岡山市	患者数	18	➡	備 北	患者数	35	➡
	定点あたり	0.82			定点あたり	5.83	
倉敷市	患者数	49	➡	真 庭	患者数	12	➡
	定点あたり	3.06			定点あたり	4.00	
備 前	患者数	24	➡	美 作	患者数	18	➡
	定点あたり	1.60			定点あたり	1.80	

【記号の説明】 前週からの推移    ⬆️ : 大幅な増加    ➡️ : 増加    ➡️ : ほぼ増減なし    ➡️ : 減少    ⬇️ : 大幅な減少  
 大幅 : 前週比 100%以上の増減                      増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減



※前年データは破線で示しています。

○全国の発生状況

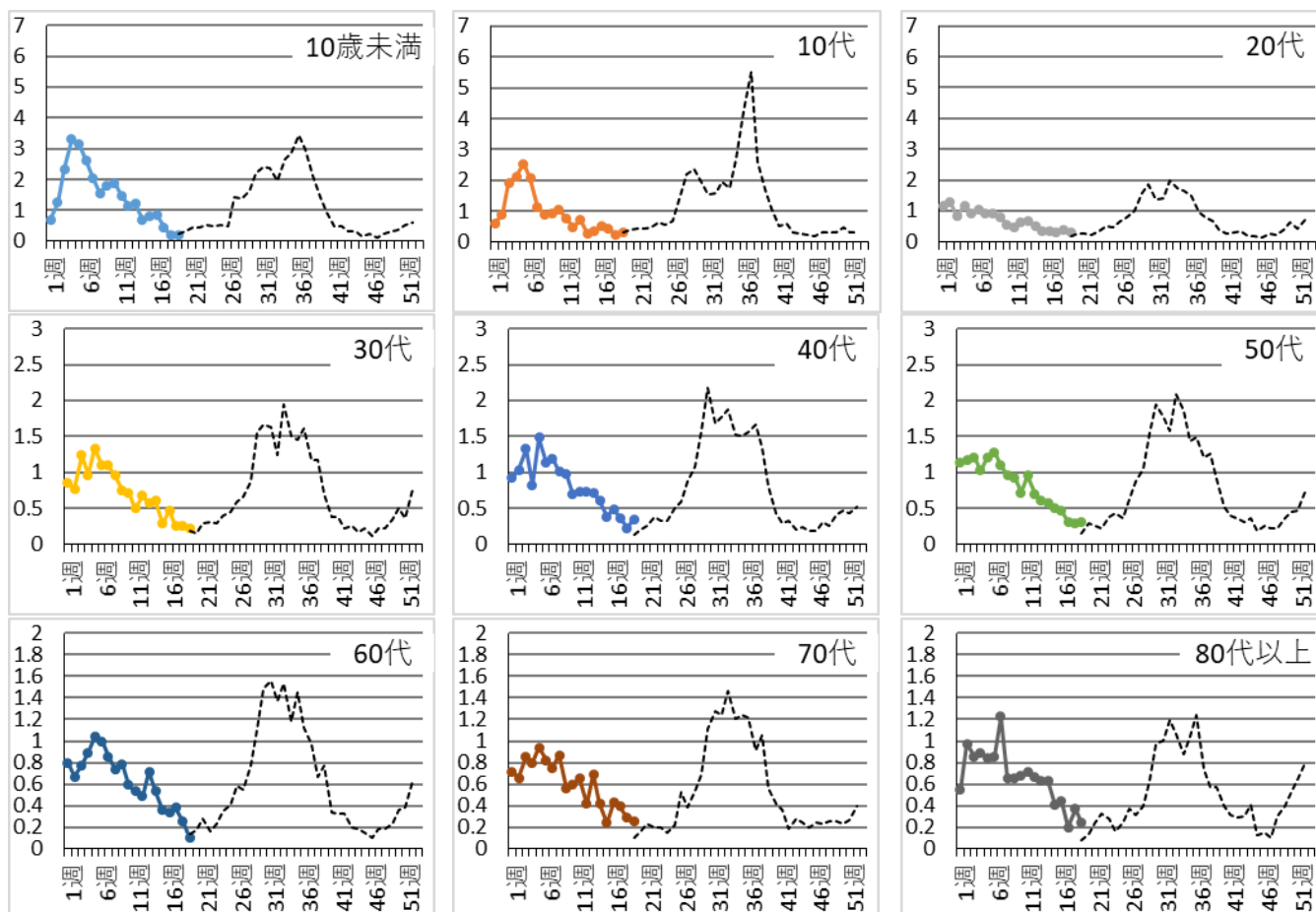
全国集計 2024 年第 19 週速報値 (2024 年 5 月 15 日時点) によると、全国の定点あたり報告数は 2.76 人となり、前週とほぼ同数でした。

## 2. 年齢別発生状況

○第19週 (単位：名)

合計	0-3歳	4-6歳	7-9歳	10-14歳	15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
193	13	2	2	10	17	25	19	29	26	9	21	20

○年齢階級別の定点あたり報告数の推移



※前年データは破線で示しています。

### ⚠ 留意点：年齢階級別の報告数の考え方について

定点医療機関は、小児科定点が内科定点に比べて多く選択されているため、報告数は小児に偏ります。一方で、年齢階級別の報告数により、経時的な流行全体の傾向(トレンド)と水準(レベル)の把握および年齢階級ごとにおける流行の傾向と水準を把握することができます。

## 3. 新型コロナウイルス検出状況 (ゲノム解析)

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析 \(岡山県感染症情報センター\)](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について \(国立感染症研究所\)](#)





## 風しんの抗体検査(無料)を受けましょう!

### <妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群(CRS)\*の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県疾病感染症対策課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

### <1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています(2025年3月31日まで)。

以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

#### [市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

岡山県の2019年4月~2023年11月の風しんのクーポン  
使用実績(抗体検査)は、34.5%と未だに低い状況です!

CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を  
受けましょう!

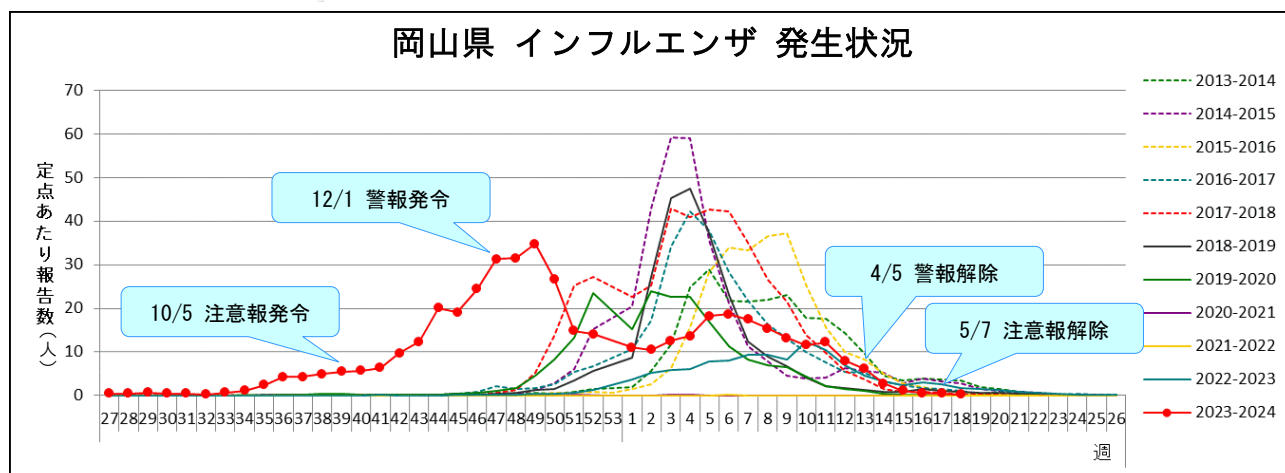
[風しんの追加的対策について\(厚生労働省\)](#)  
[風疹に関する疫学情報\(国立感染症研究所\)](#)  
[“風疹ゼロ”プロジェクト\(日本産婦人科医会\)](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

# 岡山県 インフルエンザ発生状況

## ( 2023/24 年シーズンのまとめ )



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

### 2023/24 年シーズン(2023/9/4~2024/9/1)のうち、2024 年 5 月 5 日までの岡山県におけるインフルエンザの発生動向をまとめました(県内 84 定点医療機関報告)。

今シーズン、岡山県の患者報告数は、37,253 人であり、過去 10 シーズンで最も多い報告数でした。注意報発令のなかった 2 シーズン(2020/21 年および 2021/22 年シーズン)後、3 年ぶりに流行した昨シーズン(2022/23 年シーズン)を大きく上回る流行が認められました。

昨シーズンは第 21 週(5/22~5/28)に 0.87 人、第 22 週(5/29~6/4)に 0.57 人と、2 週連続して定点あたり 1.00 人を下回ったため、「インフルエンザ注意報」を、6 月 8 日をもって解除しましたが、注意報解除以降も患者の発生が続き(最少で第 24 週(6/12~6/18)の 0.18 人)、第 34 週(8/21~8/27)には 1.11 人と、定点あたり 1.00 人を超えて今シーズンに入りました。

岡山県の注意報発令基準である定点あたり 1.00 人を上回った後、第 39 週(9/25~10/1)には定点あたり 5.50 人となり、更に増加傾向で推移したことから、10 月 5 日に「インフルエンザ注意報」を発令しました。過去 10 シーズンと比較すると、最も早い流行期入りであり、その後、流行が徐々に拡大しました。

第 47 週(11/20~11/26)には定点あたり 31.35 人となり、警報発令基準の 30.00 人を上回ったため、12 月 1 日に「インフルエンザ警報」を発令し(2019 年 1 月以来 5 シーズンぶり)、更なる注意喚起をはかりました。

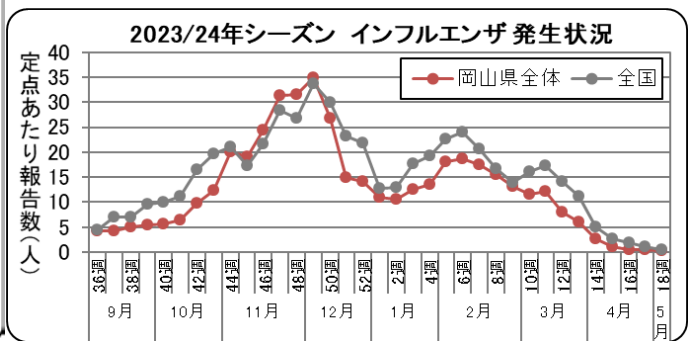
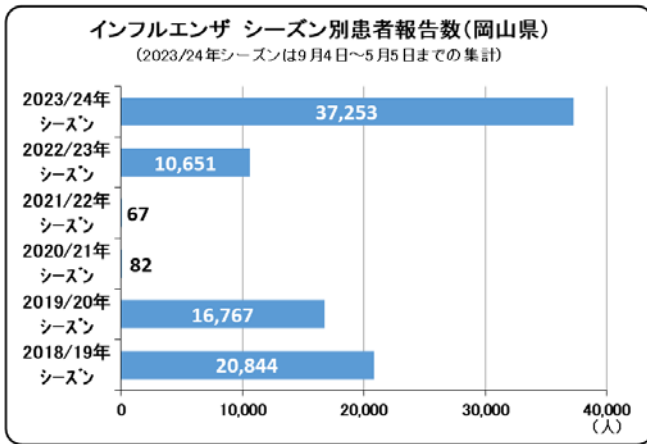
患者報告数は、第 49 週(12/4~12/10)をピーク(2,923 人(定点あたり 34.80 人))とし、減少に転じました。しかし、年末年始の時期に下げ止まり、1 月中旬頃から再び増加傾向となり、第 6 週(2/5~2/11)に 2 つ目のピーク(1,565 人(定点あたり 18.63 人))を経て、以降は緩やかな減少傾向で推移しました。

第 12 週(3/18~3/24)には 8.02 人、第 13 週(3/25~3/31)には 6.07 人と、2 週連続して定点あたり 10.00 人を下回ったため、警報から注意報に切り替えました。その後も、減少傾向で推移し、第 16 週(4/15~4/21)には 0.55 人、第 17 週(4/22~4/28)には 0.40 人と、2 週連続して定点あたり 1.00 人を下回ったため、県内に発令していた「インフルエンザ注意報」は、5 月 7 日をもって解除しました。

全国では、昨シーズン、全国的な流行の指標である定点あたり 1.00 人を 2022 年第 51 週に上回ってから、同シーズン中に下回ることなく、今シーズンに突入しました。第 49 週(12/4~12/10)に 33.73 人となり、流行のピークを迎え、さらに第 6 週に 2 つ目のピークを経て、緩やかに減少し、第 18 週(4/29~5/5)には定点あたり 0.45 人(2024 年 5 月 8 日現在)まで減少しました。

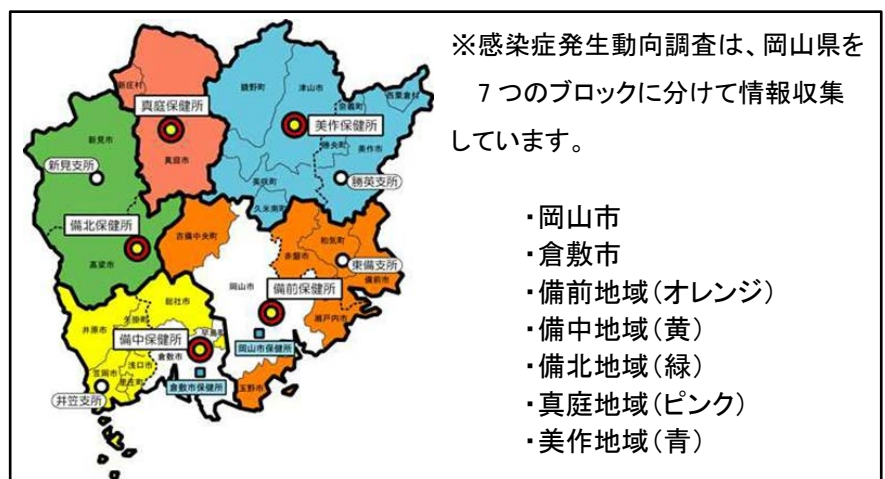
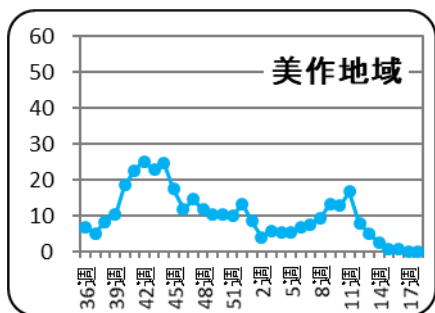
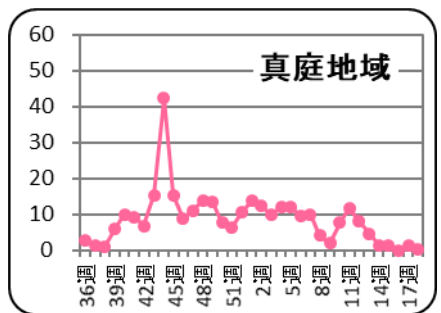
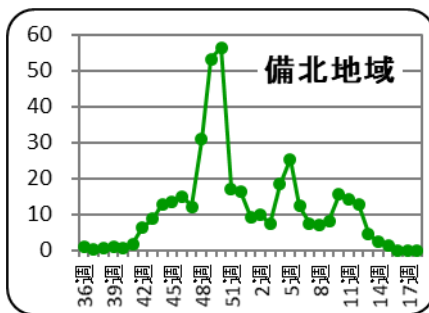
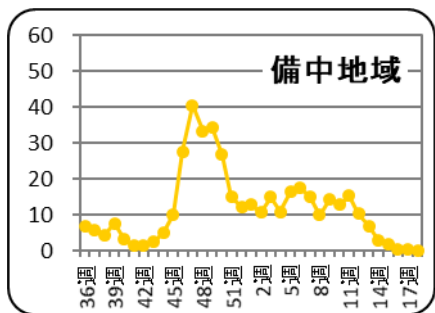
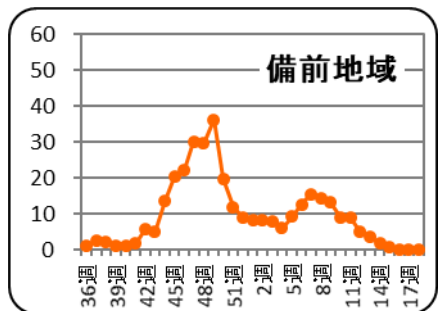
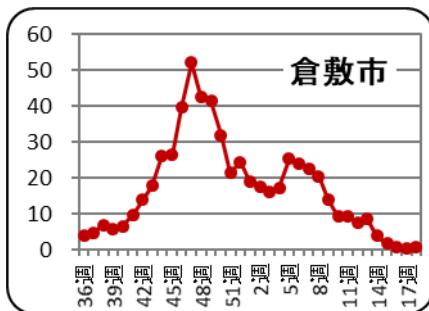
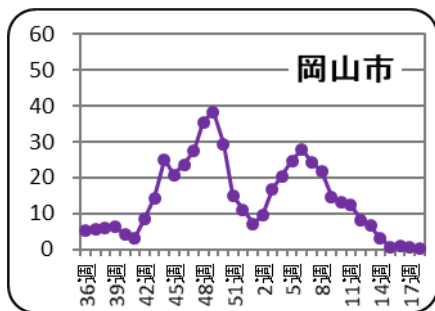
今シーズン、岡山県は全国と同様な流行の推移が見られました。





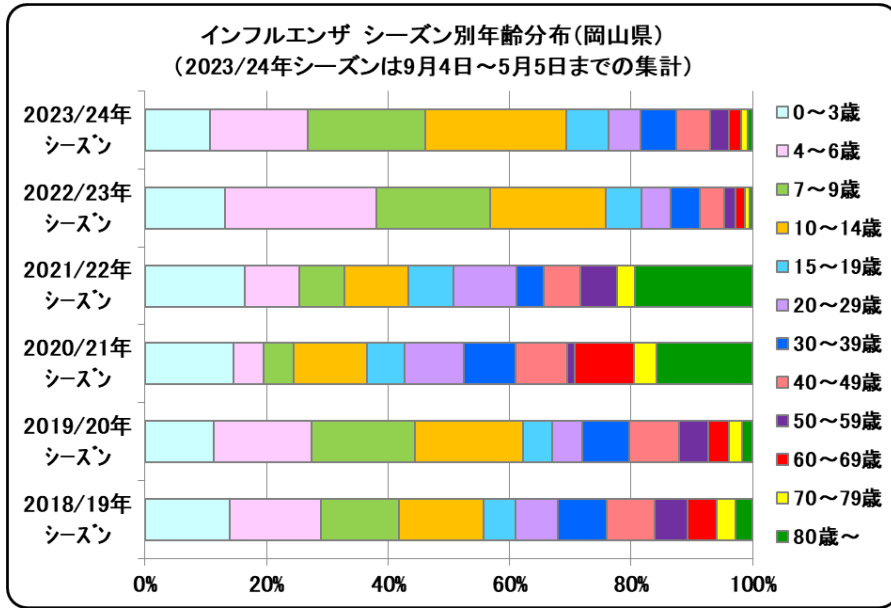
## 1. 地域別発生状況

地域別で見ると、シーズン当初から全ての地域で患者が報告され、2023年第36週(9/4～9/10)時点で流行開始の指標値(定点あたり1.00人)を超えていました(4.30人)。その後、患者は増加を続け、各地域のピーク時の定点あたり報告数は、岡山市38.32人(第49週)、倉敷市52.06人(第47週)、備前地域36.13人(第49週)、備中地域40.58人(第47週)、備北地域56.50人(第50週)、真庭地域42.33人(第44週)、美作地域25.20人(第42週)でした。多くの地域で2月頃に2つ目のピークが見られ、流行は二峰性に推移しました。各地域でピーク時期にばらつきはあったものの、ピーク以降は増減を繰り返しながら減少しました。



## 2. 年齢別発生状況

年齢別割合は、10～14歳(23.1%)、7～9歳(19.4%)、4～6歳(16.1%)、0～3歳(10.8%)の順で多くなりました。

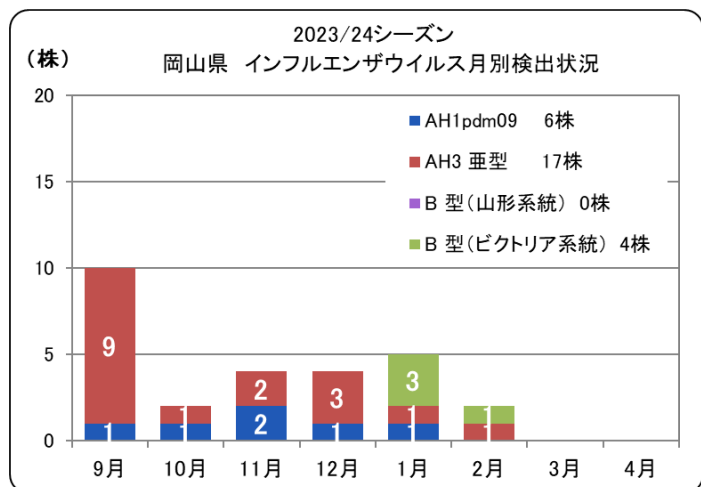
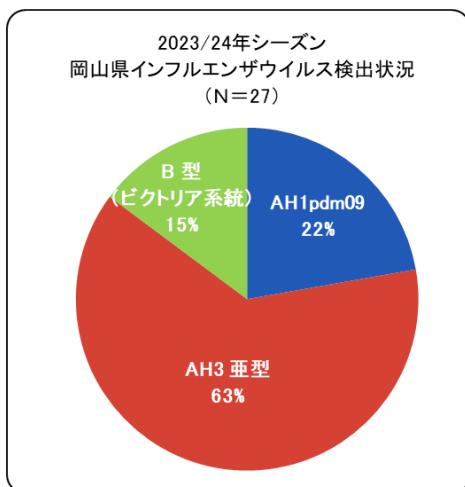


## 3. インフルエンザウイルス検出状況

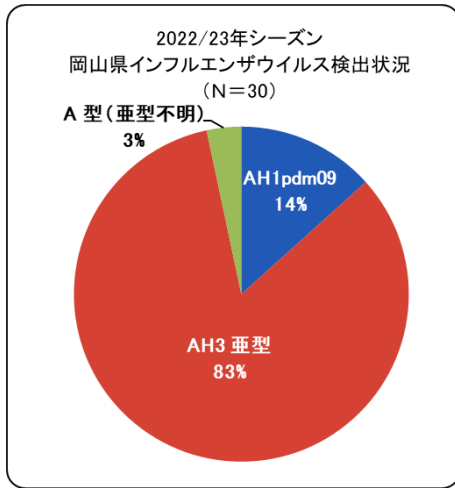
今シーズンのうち、2024年5月5日までに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス27株の内訳は、AH3亜型が17株(63%)で最も多く、次いでAH1pdm09が6株(22%)、B型(ビクトリア系統)が4株(15%)でした。今シーズンの主流株はAH3亜型でしたが、1月中旬頃からはB型(ビクトリア系統)も検出されました。

全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、AH3亜型 3,176株(50.6%)、AH1pdm09 1,738株(27.7%)、B型 1,343株〔ビクトリア系統 1,310株、山形系統 0株、系統不明 33株〕(21.4%)、A型亜型不明 13株(0.2%)、C型 1株(0.02%)の順でした。今シーズンの主流株は、岡山県と同様にAH3亜型でしたが、2月頃からB型(ビクトリア系統)が主流となりました(2024年4月30日現在)。

### 【2023/24年シーズン】

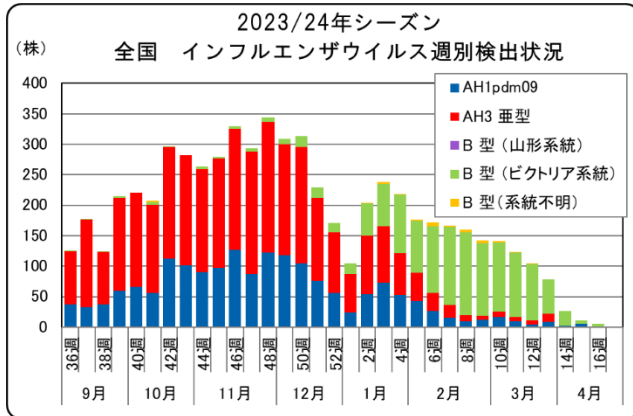
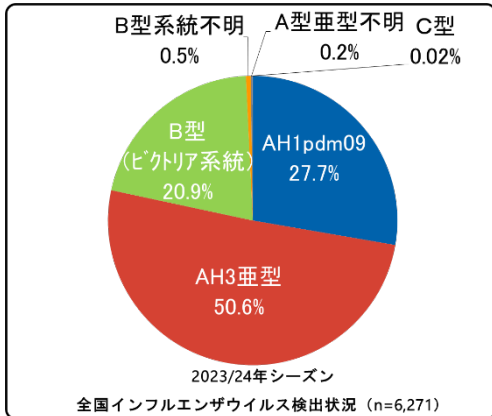


【2022/23 年シーズン】

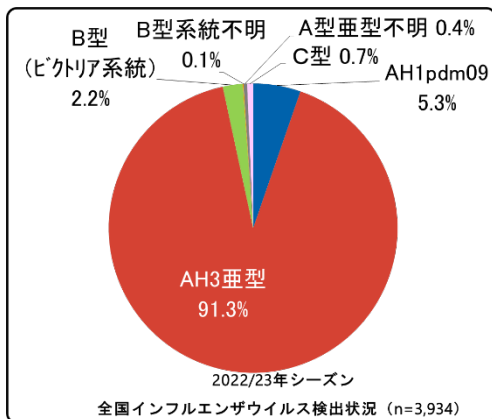


<全国のインフルエンザウイルス検出状況>

【2023/24 年シーズン】



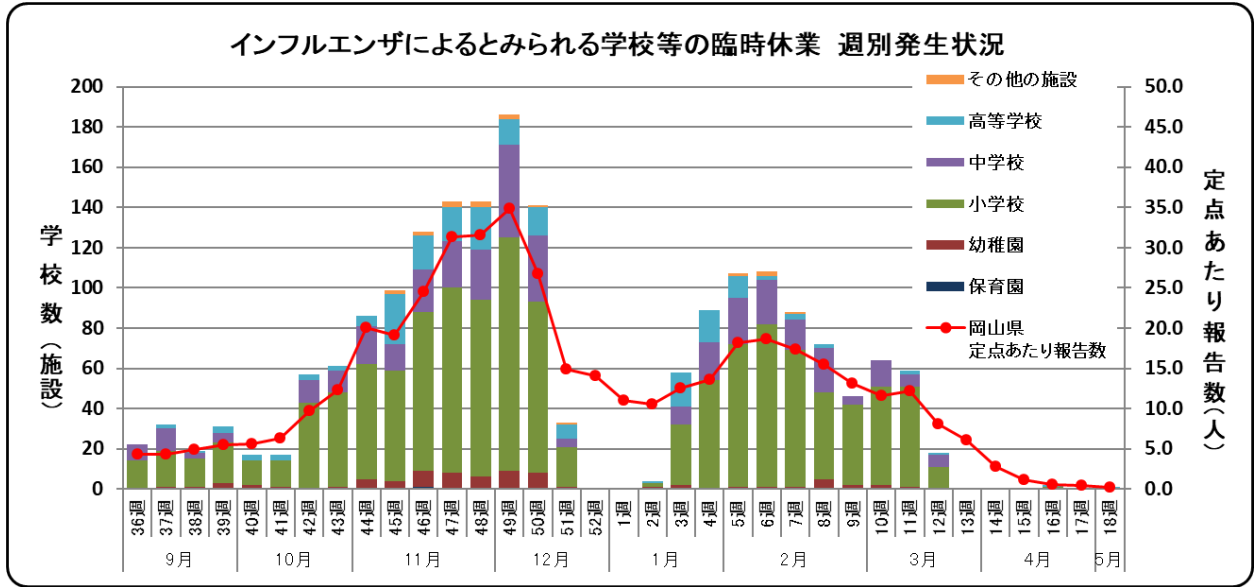
【2022/23 年シーズン】



[インフルエンザウイルス分離検出状況 \(国立感染症研究所\)](#)

#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

今シーズンのうち、2024年5月5日までのインフルエンザによるとみられる臨時休業は、1,931施設で、昨シーズン(315施設)と比較して大きく増加しました。施設別では、保育園1施設、幼稚園74施設、小学校1,273施設、中学校372施設、高等学校193施設、その他18施設でした。初発はシーズン初日の2023年9月4日で、昨シーズン(12月12日)よりも早い時期の報告となり、今シーズンのピークとなった49週には1週間に186施設の報告がありました。



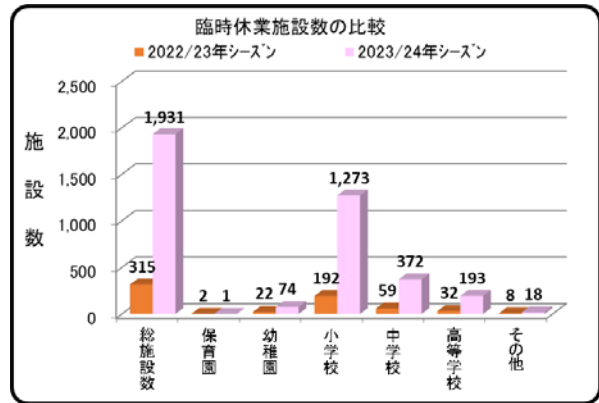
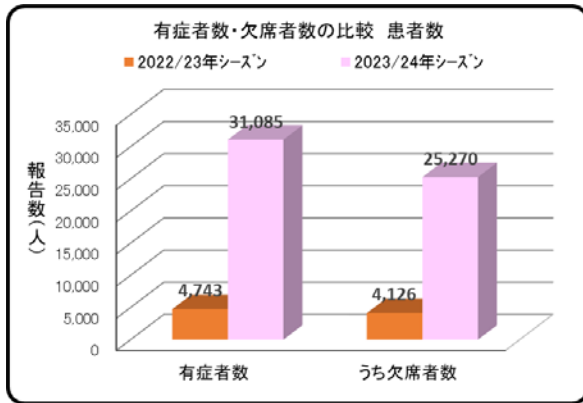
#### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

地域名*	有症者数	うち欠席者数	施設数合計	休園・休校	学年閉鎖	学級閉鎖	初発年月日
<b>岡山県全体</b>	<b>31,085</b>	<b>25,270</b>	<b>1,931</b>	<b>34</b>	<b>439</b>	<b>1,458</b>	<b>R5.9.4</b>
岡山市	12,220	9,967	732	6	47	679	R5.9.4
倉敷市	7,533	6,265	434	4	42	388	R5.9.4
備前地域	2,946	2,349	205	6	79	120	R5.9.4
備中地域	3,467	2,702	230	3	92	135	R5.9.4
備北地域	926	749	65	6	32	27	R5.10.17
真庭地域	636	482	28	4	18	6	R5.10.26
美作地域	3,357	2,756	237	5	129	103	R5.9.4

#### 2) 臨時休業施設数の内訳 累計:1,931施設

	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	1	74	1,273	372	193	18



### 5. インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点 5医療機関による報告)

今シーズン、2024年5月5日までのインフルエンザによる入院患者数は、206名であり、昨シーズン(38名)から大きく増加しました。週別では、第50週(12/11~12/17)に入院患者数が今シーズン最多の18名となりました。70歳以上の入院患者数は、56名であり、入院患者数全体の27%を占めました。10歳未満の入院患者数は115名であり、入院患者数全体の56%を占めました。また、インフルエンザ脳症(第5類感染症の全数把握対象疾患である急性脳炎の届出において、病原体としてインフルエンザウイルスの記載があるもの)の報告は、岡山県では2名(2017/18年シーズン:4名、2018/19年シーズン:3名、2019/20年シーズン:6名、2020/21年シーズン:0名、2021/22年シーズン:0名、2022/23年シーズン:2名)と、昨シーズンと同様に新型コロナウイルス感染症流行前と比較してやや少ない報告数でした。全国では、インフルエンザ脳症の報告は183例の報告があり、昨シーズンから大きく増加し、新型コロナウイルス感染症流行前と同様の報告数でした(2018/19年シーズン:231名、2019/20年シーズン:255名、2020/21年シーズン:0名、2021/22年シーズン:1名、2022/23年シーズン:43名)。

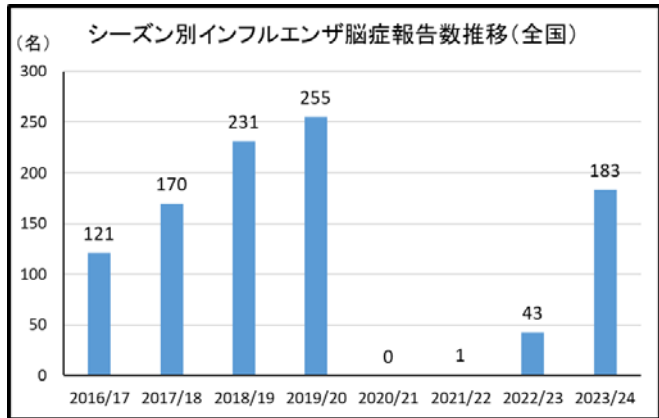
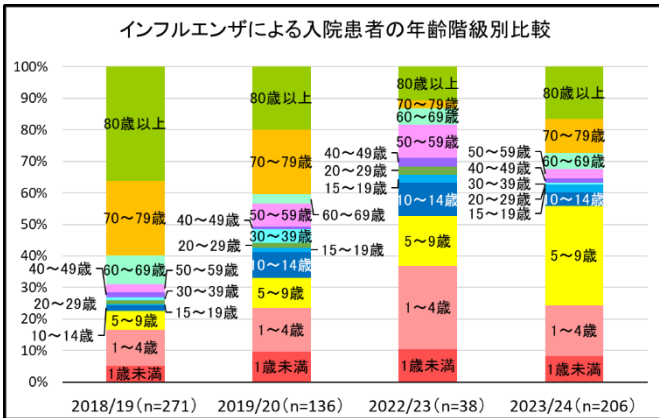
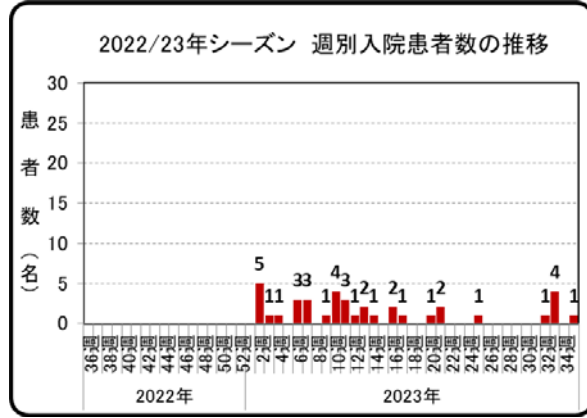
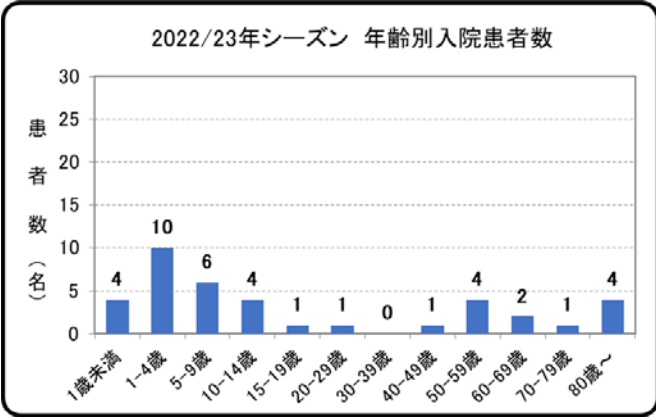
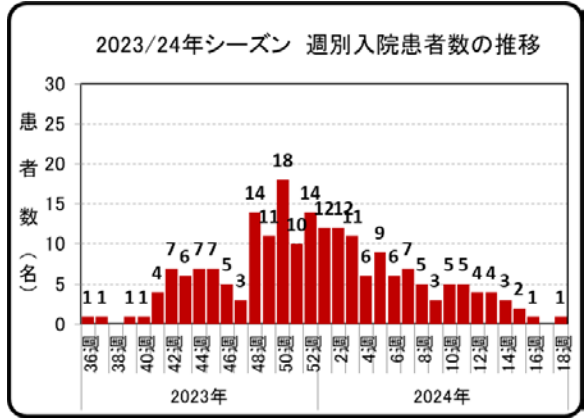
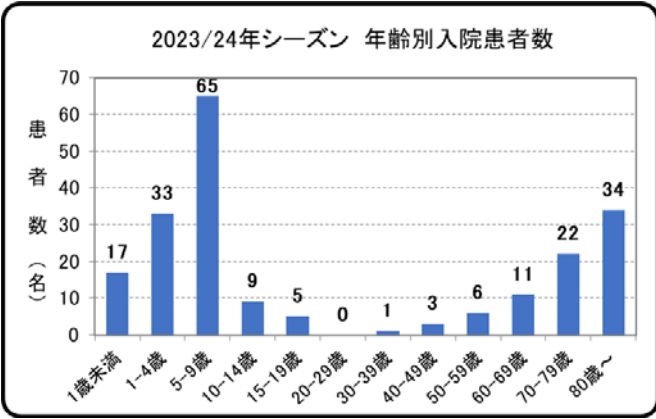
岡山県のインフルエンザ脳症は、インフルエンザA型を病原体とするものが1名、B型を病原体とするものが1名でした。全国においては、インフルエンザA型を病原体とするものが65%、B型を病原体とするものが23%を占めており、B型を病原体とするものは全て第2週以降に報告されました。

【2023/24年シーズン(2023年9月4日~2024年5月5日)までの入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	17	33	65	9	5		1	3	6	11	22	34	206
ICU入室		1	1		1			1	1		1	2	8
人工呼吸器の利用			1					1				1	3
頭部CT検査(予定含)		2	1		1					1	5	5	15
頭部MRI検査(予定含)	1	5	9	2	1					1		2	21
脳波検査(予定含)		1	7										8
いずれにも該当せず	16	26	51	7	3		1	2	5	10	16	28	165

\* 重複あり





保健所別報告患者数 2024年 19週(定点把握)

( 2024/05/06～2024/05/12 )

2024年5月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	22	0.26	5	0.23	7	0.44	5	0.33	1	0.08	2	0.33	-	-	2	0.20
RSウイルス感染症	20	0.37	6	0.43	6	0.55	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	5	0.83
咽頭結膜熱	60	1.11	9	0.64	14	1.27	10	1.00	14	2.00	-	-	8	4.00	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	128	2.37	45	3.21	15	1.36	15	1.50	17	2.43	12	3.00	10	5.00	14	2.33
感染性胃腸炎	173	3.20	59	4.21	20	1.82	34	3.40	24	3.43	11	2.75	3	1.50	22	3.67
水痘	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	58	1.07	15	1.07	19	1.73	2	0.20	11	1.57	6	1.50	-	-	5	0.83
伝染性紅斑	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	9	0.17	2	0.14	2	0.18	-	-	2	0.29	-	-	-	-	3	0.50
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	3	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2024年 19週(発生レベル設定疾患)

( 2024/05/06~2024/05/12 )

2024年5月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	22	0.26	5	0.23	7	0.44	5	0.33	1	0.08	2	0.33	-	-	2	0.20
咽頭結膜熱	60	1.11	9	0.64	14	1.27	10	1.00	14	2.00	-	-	8	4.00	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	128	2.37	45	3.21	15	1.36	15	1.50	17	2.43	12	3.00	10	5.00	14	2.33
感染性胃腸炎	173	3.20	59	4.21	20	1.82	34	3.40	24	3.43	11	2.75	3	1.50	22	3.67
水痘	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	58	1.07	15	1.07	19	1.73	2	0.20	11	1.57	6	1.50	-	-	5	0.83
伝染性紅斑	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	3	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2024年 第19週 2024/05/06～2024/05/12 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	22	-	-	1	-	1	-	1	1	-	-	1	5	4	-	1	-	1	3	3	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	20	4	2	6	6	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	60	2	5	20	7	7	6	3	5	3	-	-	2	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	128	-	-	7	6	12	23	7	14	13	14	7	13	1	11
感染性胃腸炎	173	1	22	28	21	8	10	11	7	6	9	8	22	2	18
水痘	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
手足口病	58	1	7	11	18	5	7	5	2	1	-	-	-	1	
伝染性紅斑	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
突発性発疹	9	-	3	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )

保健所別

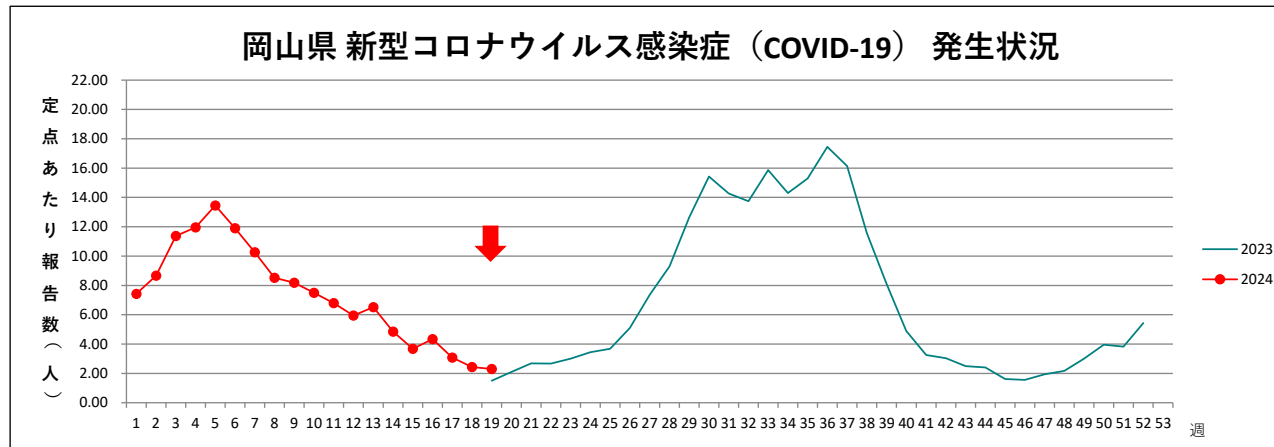
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	193	2.30	18	0.82	49	3.06	24	1.60	37	3.08	35	5.83	12	4.00	18	1.80

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	193	2	1	4	2	4	-	1	1	-	2	-	10	17	25	19	29	26	9	21	20

(- : 0)





# 全数把握 感染症患者発生状況

2024 年 19 週

分類	疾病名	2024		2023	疾病名	2024		2023	疾病名	2024		2023
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-								
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	77	211	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-								
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	1	7	104
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-				
四類	E型肝炎	-	-	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	2	3	-
	エキノコックス症	-	-	-	エムポックス	-	-	1	黄熱	-	-	-
	オウム病	-	-	1	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-
	キャサヌル森林病	-	-	-	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	4
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	4
	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	2	13	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	7	48
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-				
五類	ア메ーバ赤痢	-	1	11	ウイルス性肝炎	-	-	4	カルバベネム耐性腸内細菌目細菌感染症	-	10	28
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	1	急性脳炎	1	6	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	-	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	17	10	後天性免疫不全症候群	-	3	5
	ジアルジア症	-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	4	10	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	-
	侵襲性肺炎球菌感染症	-	8	35	水痘(入院例に限る。)	-	2	5	先天性風しん症候群	-	-	-
	梅毒	-	115	316	播種性クリプトコックス症	-	2	2	破傷風	-	-	4
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	百日咳	-	1	22
	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	2

